

令和7年度 大内こども園評価書

1 施設の概要

施設名	東かがわ市立大内こども園	園長	小西 ゆかり
住所	〒769-2605 東かがわ市中筋367番地1	TEL	0879-25-3777
HP		E-mail	mlw4101@city.higashikagawa.lg.jp

園児数 学級数 (R7.5.1)	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
	4名	15名	14名	28名	21名	29名	111名
	1学級	1学級	2学級	2学級	2学級	2学級	10学級

職員 (R7.5.1)	園長	副園長	保育教諭	保育教諭 補助員	庁務員
	1名	1名	28名	7名	1名

園教育 ・保育 目 標	心豊かで、心身ともにたくましく生きる子どもの育成
経営の重点	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的生活習慣の定着を図りながら、健やかな心と体の育成に努める。 2 様々な体験活動を通して、豊かな心や感性を育てる。 3 職員の資質向上及び働き方改革を目指す。
指導の重点	<ol style="list-style-type: none"> 1 家庭と連携しながら基本的生活習慣の定着を図り、意欲や自信を持って活動できる子どもの育成に取り組む。 2 地域や保護者と連携し、様々な人との関わりや活動を通して豊かな心が育めるようにする。 3 職員研修の充実とともに、仕事の効率化や軽減の強化に努める。

2 園教育評価

	評価項目	自己評価	園関係者評価
確かな学びの定着	◎基礎的・基本的な学力定着、伸長のための適切な指導が計画的に行われているか。		
	子どもの年齢や発達に応じた教育・保育計画であるか。	A	A
	子どもの興味・関心・意欲を大切にし、子どもの育ちを支援する環境の工夫ができているか。	B	
	子ども一人一人の幼児理解に努め、各自の思いや考えを大切にしたり関わりをしているか。	A	
	自然、人、物などと触れ合うことにより、豊かな体験の充実が図られているか。	A	
心豊かな温かい人づくり	◎豊かな心を育み、正しい規範意識と生活習慣を身に付けた子どもの育成が図られているか。		
	様々な遊びや生活経験を通して、人や動植物と関わりながら豊かな心を育むことができているか。	B	A
	人と関わるための基本的な生活習慣の形成に向けて、取組の工夫ができているか。	B	
	よりよい人間関係を築くために、子ども一人一人の思いを受け止め、寄り添ったり友達とつないだりする関わりができているか。	A	
	善悪の判断や思いやりの言葉等の規範意識を養えるような関わりができているか。	A	
たくましく生きる力の育成	◎様々な体験を通して、心身ともに健康でたくましく生きる力を培うことができているか。		
	食物への興味・関心をもち、食べる楽しさを感じられる関わりや環境構成に努め、食育の推進が図られているか。	A	A
	体を動かす心地よさや、達成感が味わえるような環境を整え、自ら体を動かそうとする意欲が育つよう取り組んでいるか。	A	
	安全な生活や交通安全についての意識を高める取組を計画的に行うことができているか。	B	
	個々の家庭と連携し、子どもの実態や年間計画に沿って基本的な生活習慣の定着を図っているか。	A	
教職員組織と研修	◎教育・保育課題を達成するため教職員組織や指導力を向上させるための研修内容になっているか。		
	園内外の研修を通して自分の保育を振り返り、子どもの人権を尊重する関わりに努めているか。	A	B
	子ども理解や子どもの育ちにつながる研修の工夫ができているか。	B	
	園内研修の内容や進め方が、子どもへの関わり方や環境構成の学びとなり、保育実践に生かすことができているか。	B	
	園内外の研修を計画的に工夫して実施し、自己研鑽に努めているか。	B	
教職員の働き方改革	◎教職員のワーク・ライフ・バランスを考慮した業務の適正化等が図られているか。		
	園務分掌において、経験年数や担任学級等を考慮し、組織や職員体制を整備して、できるだけ均等化されるように努めているか。	B	A
	園内行事や活動を見直したり、事務処理の時間を確保したりして職務の効率化に努めているか。	A	
	職員同士が協働意識の下、連携・協力してそれぞれの職員の業務改善に努めているか。	A	
	園内研修等は、時間を決めたり考えをまとめて参加したりして効率よく行えるよう努めているか。	B	

保護者・地域との連携	◎園教育の充実のために保護者や地域との連携協力が図られているか。		
	園便り、クラス便り、写真掲示等を通して園からの情報を分かりやすく公開できているか。	A	A
	職員は、保護者の子育ての悩みや相談に応じたり、共に成長を喜び合ったりして適切な対応に努めているか。	A	
	保護者や地域、小学校、関係機関等と連携し、教育保育活動の充実に努めているか。	B	
支援センター活動は、地域の子育て支援につながる計画・実践となっているか。	A		
施設・設備	◎園児が安全に楽しい学校生活を送れる施設・設備になっているか。		
	園内環境の安全点検を定期的実施し、必要に応じて迅速に対応できているか。	A	A
	避難訓練の実施だけでなく、常に危機意識をもち、不審者・災害等に適切に対応できるように努めているか。	A	
	清掃や緑化に努め、衛生的で機能的な環境の保持に努めることができているか。	A	

評価 [A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや改善の必要がある D：改善の必要がある]

3 成果と課題 [○成果 ●課題]

- 家庭と連携して取り組めるよう、生活調べやチャレンジカードの内容を、生活習慣の改善や体力向上が意識できるように工夫したことで、生活習慣の見直しにつながったり体を動かそうとする態度が育ってきたりしている。
- 園行事で地域との交流の機会が増え、子どもたちはいろいろなことが経験でき、いろいろな人と接することで、親しみをもち豊かな心の育成につながってきている。保護者に向けて、その様子や保育の様子を写真掲示することで、子どもや職員と一緒に話をしながら見たり、子どもたちの様子を知ってもらえたりと、保護者との信頼関係も深められている。
- 園内研修の持ち方や職員同士の協働意識の下、連携・協力して子どもたちの関わりに努めようとする姿が多く見られるようになってきている。
- 家庭によっては、生活調べやチャレンジカードが生活習慣の改善や体力向上の定着につながっていないので、一人一人に合わせた内容にするなど、定着につなげられるような工夫が必要である。
- 園行事や交流を通して、子どもと地域、また保護者同士のつながりを広げ、深められるような内容の工夫が必要である。
- 園内研修は研修内容を検討し、環境構成等、保育に即取り入れられるものや職員同士のつながりを深められるようなものを取り入れていきたい。

4 来年度の経営の重点

- 家庭と連携しながら、発達や年齢に応じた基本的な生活習慣の定着につなげる。
- 様々な体験活動や年齢に応じた経験ができるよう、環境構成や援助のあり方を探る。
- 職員の資質向上につながる研修の内容や方法を見直す。

5 来年度の指導の重点

- 家庭と連携しながら基本的な生活習慣の定着を図り、生活リズムを整え、心身の健康と自己肯定感の基盤を築く。
- 地域や保護者と連携し、様々な人との関わりや年齢や発達に応じた体験活動ができるよう、環境構成や援助のあり方を探り、取り入れていく。
- 職員研修の充実や効率化を図りながら、職員同士のつながりを深め、保育力を磨く。